2027年3月期　第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月10日

上場会社名　株式会社ダスキン　上場取引所　東
コード番号　4665　URL　https://www.duskin.co.jp
代表者　(役職名)　代表取締役 社長執行役員　(氏名)大久保　裕行
問合せ先責任者　(役職名)　執行役員 経営企画部長　(氏名)井出　丈晴　TEL　06-6821-5071

配当支払開始予定日　ー
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　：無

(百万円未満切捨て)

1.2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1)連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	49,926	5.6	3,776	79.0	4,776	55.6	2,890	53.8
2026年3月期第1四半期	47,276	4.6	2,109	12.8	3,069	13.1	1,879	23.1

(注)包括利益　2027年3月期第1四半期　1,533百万円 (12.2%)　2026年3月期第1四半期　1,366百万円 (68.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	61.39	61.39
2026年3月期第1四半期	40.04	40.03

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	205,752	156,663	76.0
2026年3月期	210,288	158,297	75.1

(参考)自己資本　2027年3月期第1四半期　156,291百万円　2026年3月期　157,936百万円

2.配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	ー	50.00	ー	68.00	118.00
2027年3月期	ー				
2027年3月期(予想)		60.00	ー	75.00	135.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
配当予想の修正については、同日(2026年8月10日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3.2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	99,400	4.5	5,100	8.7	6,900	5.0	4,400	3.6	93.46
通期	202,900	4.3	10,100	15.5	14,000	8.0	10,600	15.5	225.15

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
連結業績予想の修正については、同日(2026年8月10日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※注記事項

(1)当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規　ー社　(社名)、除外　ー社　(社名)

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料Ｐ.9「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

② ①以外の会計方針の変更　：無

③ 会計上の見積りの変更　：無

④ 修正再表示　：無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2027年3月期1Q	48,000,000株	2026年3月期	48,000,000株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	906,279株	2026年3月期	921,263株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2027年3月期1Q	47,082,483株	2026年3月期1Q	46,949,564株

※添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1.経営成績等の概況 …… 2
(1)当四半期の経営成績の概況 …… 2
(2)当四半期の財政状態の概況 …… 4
(3)連結業績予想等の将来予測情報に関する説明 …… 4
2.四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
(1)四半期連結貸借対照表 …… 5
(2)四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書…… 7
四半期連結包括利益計算書…… 8
(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)…… 9
(セグメント情報等の注記)…… 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)…… 12
(継続企業の前提に関する注記)…… 12
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)…… 12

1.経営成績等の概況

(1)当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間(2026年4月1日～2026年6月30日、以下「当第1四半期」という。)の我が国経済は、雇用・所得環境が引き続き改善傾向を維持した一方で、中東情勢の長期化によるエネルギー・原材料価格の高騰等の景気下振れ圧力も強まっており、依然として先行きは不透明となっております。

そのような環境の中、当社は、長期経営戦略「Do-Connect」の第1フェーズである「中期経営方針2028」(2026年3月期～2028年3月期)の2年目として、新たな事業への「新化」、周辺事業への「進化」、既存事業の「深化」と、それらを支える経営基盤の強化に引き続き取り組んでおります。

訪販グループにおいては、レントオール事業(日用品・イベント用品等のレンタル)を中心に、災害発生時における避難所等の生活・衛生環境の向上を通じて地域の安全・安心に貢献することを引き続き目指しております。自治体との災害協定締結を全国で推進し、災害時の支援体制の拡大に取り組んでおります。

フードグループの主力事業であるミスタードーナツにおいては、“いつもあるのに、いつもあたらしい”のスローガンのもと、時代に合わせた新しい形に挑戦し、特に新商品開発については、ミスタードーナツならではのおいしさと食感にこだわった商品の開発に取り組んでおります。また、環境保全の取り組みとして、食品ロスの削減やバイオマス配合の包材を順次拡大導入する等、資源の有効活用を通じた循環型社会づくりにも取り組んでおります。

当第1四半期は全てのセグメントが増収となり、連結売上高は前年同期から26億49百万円(5.6%)増加し499億26百万円となりました。利益面につきましても各段階で増益となり、連結営業利益は前年同期から16億67百万円(79.0%)増加し37億76百万円、連結経常利益は前年同期から17億7百万円(55.6%)増加し47億76百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期から10億10百万円(53.8%)増加し28億90百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2026年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2027年3月期第1四半期)	増　減	
				増減率（%）
連結売上高	47,276	49,926	2,649	5.6
連結売上総利益	20,871	22,444	1,572	7.5
連結営業利益	2,109	3,776	1,667	79.0
連結経常利益	3,069	4,776	1,707	55.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,879	2,890	1,010	53.8

＜セグメント毎の状況＞

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2026年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2027年3月期第1四半期)	増　減	
				増減率（%）
訪販グループ	27,681	28,351	670	2.4
フードグループ	16,125	17,944	1,818	11.3
その他	4,207	4,251	44	1.1
小計	48,014	50,547	2,533	5.3
セグメント間取引消去	△738	△621	116	－
連結売上高	47,276	49,926	2,649	5.6

(注)各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第1四半期 (2026年3月期第1四半期)	当第1四半期 (2027年3月期第1四半期)	増　減	
				増減率（%）
訪販グループ	802	1,979	1,177	146.7
フードグループ	2,841	3,473	631	22.2
その他	217	213	△4	△2.1
小計	3,862	5,666	1,803	46.7
セグメント間取引消去及び全社費用	△1,753	△1,889	△136	－
連結営業利益	2,109	3,776	1,667	79.0

(注)各セグメントの営業利益は、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、前年同期に「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」会場内清掃及び個別パビリオンの清掃の提供等があった影響によりケアサービス事業(役務提供サービス)が減収となったものの、主力のクリーンサービス事業に加え、その他の事業が増収となった結果、売上高は前年同期から6億70百万円(2.4%)増加し283億51百万円となりました。営業利益は、売上増加に伴う売上総利益の増加に加えて、前年同期に発生していた「ケース付きモップクリーナー」(フランチャイズ加盟店に初めて出荷する際に原価を一括計上し、その後、レンタル契約に応じて月々の売上を計上する仕組みの商品)の原価先行計上影響が改善されたことも寄与し、前年同期から11億77百万円(146.7%)増加し19億79百万円となりました。

訪販グループ主力のクリーンサービス事業は、家庭向けは減収となったものの、事業所向けは増収となりました。

家庭向けの売上を商品別に見ますと、「ペット用おそうじモップセット」が引き続き好調を維持したことに加え、「ケース付きモップクリーナー」のレンタル売上が寄与したものの、主力商品であるモップ商品の売上は全体では減少しました。また2025年6月に新発売した「ファインバブル浄水シャワー」の新商品特需の一巡や、前年同期に使用期限到来に伴う切替需要があった消火器売上の減少により、家庭向け売上全体でも前年同期を下回りました。なお当期は、これまで注力してきた営業専任活動の更なる推進に加え、営業活動に携わる人員の裾野を広げ、より多くの拠点・スタッフが営業活動に参画できる体制の構築を進めており、新規契約件数は前年同期に比べて増加しております。

事業所向けの売上を商品別に見ますと、抗ウイルス機能付帯商品等の高機能マットの売上が減少したものの、主力商品の一部を価格改定したことが寄与し、事業所向けの売上全体は前年同期を上回りました。

ケアサービス事業につきましては、「サービスマスター」(プロのお掃除サービス)、「メリーメイド」(家事代行サービス)、「ターミニックス」(害虫獣の駆除と総合衛生管理)、「トータルグリーン」(緑と花のお手入れサービス)、「ホームリペア」(住まいのピンポイント補修)と展開している全ての事業でお客様売上は増加し、ロイヤルティ収入が増加したものの、前年同期に「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」会場内清掃及び個別パビリオンの清掃等の受注があった影響を主因として、全体では減収となりました。

訪販グループその他の事業につきましては、ライフケア事業(ご高齢者の暮らしのお手伝い)とヘルスレント事業(介護用品・福祉用具のレンタルと販売)は減収となったものの、レントオール事業、ユニフォーム関連事業、化粧品関連事業が増収となりました。注力している、レスキューサービス事業(鍵の交換や修理等に対応)につきましては、フランチャイズ展開の推進により拠点数が増加し、お客様売上も順調に推移しております。

②フードグループ

フードグループは、主力事業であるミスタードーナツの全店合計お客様売上が増加し、原材料売上、ロイヤルティ収入が増加したこと等により、売上高は前年同期から18億18百万円(11.3%)増加し179億44百万円となりました。利益面につきましては、増収に伴い売上総利益が増加したこと等により、営業利益は前年同期から6億31百万円(22.2%)増加し34億73百万円となりました。

ミスタードーナツでは、1店あたりのお客様数、お客様単価が前年同期を上回りました。また、新規出店による店舗数の増加により、全店合計お客様売上は前年同期を上回りました。

第1四半期、4月から5月にかけましては、祇園辻利の宇治抹茶を使用した「宇治抹茶ドーナツシリーズ」や、台湾ドーナツをヒントに開発した、2つの食感が合わさった新感覚の生地が特長の「サクぽふん」を中心に展開しました。 また、6月は前年同期に、創業55周年を記念して発売し、大きな反響があった“もっちゅり食感”が特長のドーナツ「もっちゅりん」を今期も再度発売し、お客様からの大きな支持を得たことで売上増加に寄与しました。しかしながら、当社の想定を遥かに上回る反響をいただいた結果、一部店舗での混雑や品薄が発生したこともあり、お客様への対応に課題が残りました。

フードグループのその他の事業につきましては、とんかつレストラン「かつアンドかつ」では、お客様数は増加したもののお客様単価の低下により減収となりました。株式会社ボストンハウスは、その主力業態であるイタリアンレストラン「ナポリの食卓」において、お客様数が減少したものの前年実施した価格改定の効果でお客様単価が上昇したこと等により増収となりました。

③その他

その他につきましては、売上高は前年同期から44百万円(1.1%)増加し42億51百万円、営業利益は前年同期から4百万円(2.1%)減少し2億13百万円となりました。

国内連結子会社につきましては、ダスキン共益株式会社(リース及び保険代理業)が減収となったものの、株式会社ダスキンヘルスケア(病院施設のマネジメントサービス)は増収となりました。海外連結子会社につきましては、中国でダストコントロール商品のレンタル・販売を展開している楽清(上海)清潔用具租賃有限公司は減収、マレーシアを中心にドーナツ事業を展開しているBig Appleグループは、お客様売上が増加したこと等により増収となりました。一方、海外向けの原材料等の売上につきましては、香港向けのドーナツ原材料売上や台湾向けのマット売上が増加した一方、台湾向けのドーナツ原材料売上が減少したこと等により、全体では減収となりました。

(2)当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産残高は、2,057億52百万円となりました。前連結会計年度末(以下「前期末」という。)と比較して45億35百万円減少しております。その要因は、有価証券が60億96百万円、投資有価証券が17億95百万円減少したことに対し、未収入金が23億42百万円増加したこと等であります。

負債残高は490億88百万円となり、前期末と比較して29億2百万円減少しております。その要因は、賞与引当金が23億45百万円、未払金が16億67百万円減少したことに対し、流動負債その他が10億77百万円増加したこと等であります。

純資産残高は1,566億63百万円となり、前期末と比較して16億33百万円減少しております。その要因は、その他有価証券評価差額金が10億45百万円、退職給付に係る調整累計額が3億56百万円減少したこと等であります。

(3)連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

2027年3月期(2026年4月1日～2027年3月31日)通期の業績予想(連結・個別)につきましては、同日(2026年8月10日)に公表した「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」のとおりでありますが、当該業績予想の修正理由は、フードグループ主力のミスタードーナツ事業が引き続き好調に推移しており、売上高、利益が期初予想を上回る見込みとなることに加え、全社費用が減少する見込みとなったことによるものです。一方、訪販グループ及びその他につきましては、売上高・利益ともに期初予想からの変更はありません。

なお、期初の業績予想公表時点では織り込んでいなかった中東情勢の影響につきましては、上半期は想定される影響額を織り込み業績予想に反映しておりますが、下半期以降については、現時点で合理的に見積もることが困難であるため、織り込んでおりません。また、2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震の影響につきましては、現時点で業績への影響額を算定中であり、業績予想の修正には織り込んでおりません。

業績予想修正後のセグメント別内訳、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は以下のとおりです。

(単位：百万円)

			通期予想		
			2026年5月15日 公表①	2026年8月10日 修正②	修正額 ②-①
連結	訪販グループ	売上高	115,800	115,800	―
		営業利益	6,800	6,800	―
	フードグループ	売上高	70,800	72,200	1,400
		営業利益	9,800	10,400	600
	その他	売上高	17,500	17,500	―
		営業利益	600	600	―
	セグメント間 取引消去及び 全社費用	売上高	△2,600	△2,600	―
		営業利益	△8,200	△7,700	500
		売上高	201,500	202,900	1,400
		営業利益	9,000	10,100	1,100
		営業利益率(%)	4.5	5.0	―
連結経常利益			12,900	14,000	1,100
親会社株主に帰属する当期純利益			9,800	10,600	800

(注)実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1)四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,496	19,498
受取手形、売掛金及び契約資産	11,981	11,446
リース債権及びリース投資資産	1,036	1,045
有価証券	11,192	5,096
商品及び製品	8,554	8,555
仕掛品	319	368
原材料及び貯蔵品	3,417	3,511
未収入金	8,137	10,479
その他	2,197	2,678
貸倒引当金	△12	△14
流動資産合計	66,320	62,666
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	48,727	48,829
減価償却累計額	△34,471	△34,762
建物及び構築物（純額）	14,255	14,067
機械装置及び運搬具	29,801	29,845
減価償却累計額	△21,442	△21,635
機械装置及び運搬具（純額）	8,358	8,209
土地	21,526	21,526
建設仮勘定	490	525
その他	16,046	16,908
減価償却累計額	△12,264	△12,443
その他（純額）	3,781	4,465
有形固定資産合計	48,412	48,794
無形固定資産		
のれん	304	280
ソフトウエア	6,351	6,174
その他	4,535	5,133
無形固定資産合計	11,191	11,588
投資その他の資産		
投資有価証券	67,730	65,934
長期貸付金	0	―
退職給付に係る資産	9,219	9,314
繰延税金資産	1,087	1,109
差入保証金	4,990	5,002
その他	1,360	1,367
貸倒引当金	△25	△25
投資その他の資産合計	84,363	82,704
固定資産合計	143,967	143,086
資産合計	210,288	205,752

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,594	8,910
１年内返済予定の長期借入金	1	1
未払法人税等	1,378	1,922
賞与引当金	4,268	1,923
災害損失引当金	152	152
資産除去債務	45	45
未払金	10,762	9,094
レンタル品預り保証金	8,539	8,419
その他	8,164	9,241
流動負債合計	41,908	39,711
固定負債		
長期借入金	2	2
退職給付に係る負債	4,546	4,526
資産除去債務	869	871
長期預り保証金	704	701
繰延税金負債	3,958	3,275
リース債務	0	－
固定負債合計	10,082	9,376
負債合計	51,990	49,088
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,111	11,111
利益剰余金	123,050	122,735
自己株式	△3,031	△2,993
株主資本合計	142,483	142,207
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,427	9,381
繰延ヘッジ損益	△1	△1
為替換算調整勘定	666	698
退職給付に係る調整累計額	4,361	4,004
その他の包括利益累計額合計	15,453	14,083
新株予約権	10	10
非支配株主持分	349	362
純資産合計	158,297	156,663
負債純資産合計	210,288	205,752

(2)四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自　2025年4月1日 至　2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自　2026年4月1日 至　2026年6月30日)
売上高	47,276	49,926
売上原価	26,404	27,481
売上総利益	20,871	22,444
販売費及び一般管理費	18,762	18,667
営業利益	2,109	3,776
営業外収益		
受取利息	88	96
受取配当金	234	215
設備賃貸料	26	22
受取手数料	75	73
持分法による投資利益	335	300
その他	267	329
営業外収益合計	1,028	1,036
営業外費用		
支払利息	0	0
設備賃貸費用	14	11
支払補償費	26	12
その他	26	13
営業外費用合計	67	36
経常利益	3,069	4,776
特別利益		
固定資産売却益	35	5
投資有価証券売却益	67	10
特別利益合計	103	15
特別損失		
固定資産廃棄損	18	6
特別損失合計	18	6
税金等調整前四半期純利益	3,154	4,785
法人税等	1,262	1,882
四半期純利益	1,891	2,903
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,879	2,890

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自　2025年4月1日 至　2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自　2026年4月1日 至　2026年6月30日）
四半期純利益	1,891	2,903
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△56	△1,067
為替換算調整勘定	△63	32
退職給付に係る調整額	△288	△352
持分法適用会社に対する持分相当額	△116	18
その他の包括利益合計	△524	△1,369
四半期包括利益	1,366	1,533
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,355	1,520
非支配株主に係る四半期包括利益	11	12

(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ　前第1四半期連結累計期間(自　2025年4月1日　至　2025年6月30日)

1.報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	訪販グループ	フードグループ	その他(注)1	計	調整額(注)3	四半期連結損益計算書計上額(注)4
売上高						
クリーンサービス事業	19,216	―	―	19,216	―	19,216
ケアサービス事業	4,053	―	―	4,053	―	4,053
ミスタードーナツ事業	―	14,973	―	14,973	―	14,973
その他	4,219	1,150	3,088	8,459	―	8,459
顧客との契約から生じる収益	27,489	16,124	3,088	46,702	―	46,702
その他の収益(注)2	―	―	573	573	―	573
外部顧客への売上高	27,489	16,124	3,662	47,276	―	47,276
セグメント間の内部売上高又は振替高	191	1	545	738	△738	―
計	27,681	16,125	4,207	48,014	△738	47,276
セグメント利益又は損失(△)	802	2,841	217	3,862	△1,753	2,109

(注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2.「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3.セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,753百万円には、セグメント間取引消去△17百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,735百万円が含まれております。

4.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2.報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販グループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	19	1	3	―	24
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	242	58	22	―	323

(注)当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高242百万円(訪販グループ)、2024年1月に取得した健康菜園株式会社(現株式会社ボストンハウス)ののれん残高54百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn.Bhd.ののれん残高22百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ　当第1四半期連結累計期間(自　2026年4月1日　至　2026年6月30日)

1.報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	訪販グループ	フードグループ	その他(注)1	計	調整額(注)3	四半期連結損益計算書計上額(注)4
売上高						
クリーンサービス事業	19,294	―	―	19,294	―	19,294
ケアサービス事業	4,027	―	―	4,027	―	4,027
ミスタードーナツ事業	―	16,756	―	16,756	―	16,756
その他	4,871	1,185	3,181	9,238	―	9,238
顧客との契約から生じる収益	28,193	17,942	3,181	49,316	―	49,316
その他の収益(注)2	―	―	609	609	―	609
外部顧客への売上高	28,193	17,942	3,790	49,926	―	49,926
セグメント間の内部売上高又は振替高	157	2	461	621	△621	―
計	28,351	17,944	4,251	50,547	△621	49,926
セグメント利益又は損失(△)	1,979	3,473	213	5,666	△1,889	3,776

(注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2.「その他の収益」は、事務用機器及び車両のリースから発生しております。

3.セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,889百万円には、セグメント間取引消去11百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△1,901百万円が含まれております。

4.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2.報告セグメント毎の固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販グループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	16	5	3	―	26
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	157	111	11	―	280

(注)当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高157百万円(訪販グループ)、63百万円(フードグループ)、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn.Bhd.ののれん残高11百万円(その他)であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自　2025年4月1日 至　2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自　2026年4月1日 至　2026年6月30日)
減価償却費	1,878百万円	1,780百万円
のれんの償却額	24	26